

暑さに負けない米づくり対策

1 品種の組み合わせによる高温リスクの回避

- 早生・中生・晩生の品種を組み合わせた栽培計画の作成
- 新規需要米（飼料用米・米粉用米等）や高温耐性品種の作付け

2 早めの中干しで莖数を抑える

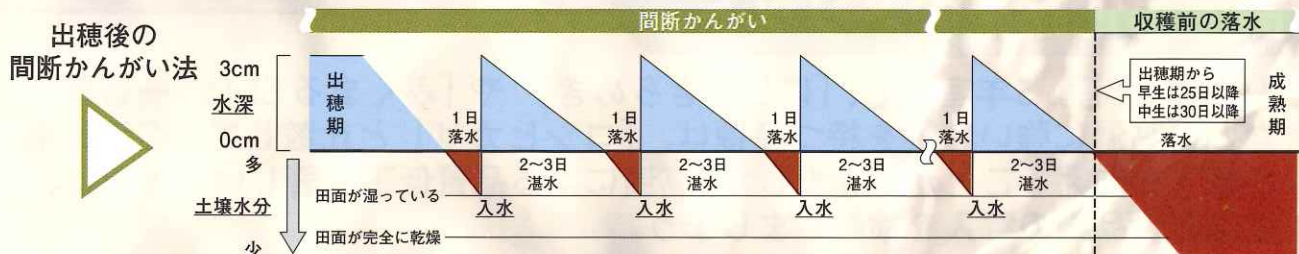
- 田植え後30～40日を目安に実施
- 「コシヒカリ」では、莖数が18本/株程度になったら開始
- 中干しは5～10日程度を目安に田面に軽くヒビが入る程度に

中干し時期の外観



3 出穂後は間断かんがいで乳白粒の発生軽減

- 2湛1落（自然落水後→田面が乾く前に入水）で根の活力維持
- 落水時期は「早生で出穂後25日～、中生で出穂後30日～」



4 適期収穫で胴割米抑制。籾の色で判断！

- 収穫は緑色の籾の割合が5～10%になったら開始
- 後半の作業が遅れる場合は、全体の刈取を3日程度早めに開始
- 急激な高温での乾燥を避けて胴割米抑制

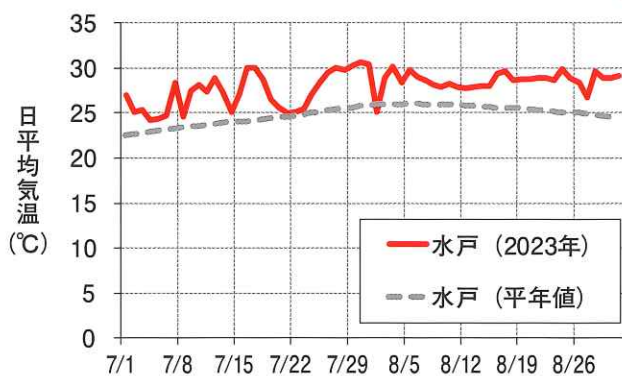
5 足元から改善！堆肥の施用と耕深の確保

- 牛ふん堆肥の施用（10aあたり乾田1t・湿田0.5t目安）
 - 15cm以上の深耕で根張りをよくして白未熟粒を抑制
- ※「コシヒカリ」などの倒伏しやすい品種では減肥が必要になる場合もあります

令和5年産の品質状況

令和5年の7～8月は観測史上最も暑い夏となり、本県でも「コシヒカリ」などで玄米の1等米比率が大幅に低下しました。今後も予想される夏の高温に備えて、栽培管理の徹底や高温耐性品種の導入により、暑さに負けない米づくりを目指しましょう。

7～8月の日平均気温の推移 (令和5年,水戸市)



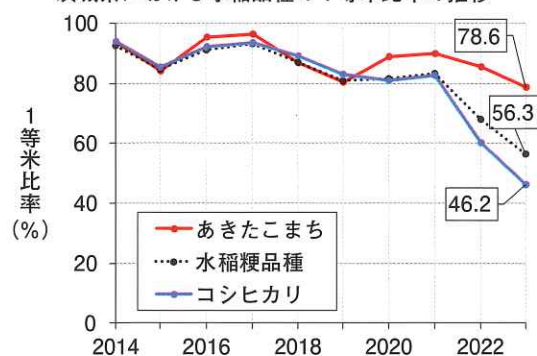
※1 平均気温は水戸地方気象台のアメダスデータを用いた。
 ※2 平年値は1991年～2020年の30年間の平均値を示す。

高温の影響で
1等米比率は
大きく低下!



「コシヒカリ」の玄米外観

茨城県における水稲品種の1等米比率の推移



※ 農林水産省公表「米穀の農産物検査結果」から、令和4年産までは確定値、令和5年産は令和5年12月31日現在の速報値を用いた。

高温耐性品種のメリット

令和4年産、5年産とも、「にじのきらめき」や「ふくまるSL」、「一番星」などの高温に強い特性を持つ品種は、「コシヒカリ」と比較して1等米比率の低下を抑えることができました。高温による品質低下が著しい地域では、高温耐性品種の導入を検討しましょう。

※「にじのきらめき」、「ふくまるSL」、「一番星」はいずれもイネ縞葉枯病抵抗性であり、イネ縞葉枯病対策にも有効です。

品種	熟期 ^{※1}	田植日 ^{※1} (月/日)	出穂期 ^{※1} (月/日)	成熟期 ^{※1} (月/日)	1等米比率 ^{※2} (%)
一番星	早生の早	5/7	7/19	8/22	79.0
ふくまるSL	早生の晩	5/7	7/21	8/24	78.0
にじのきらめき	中生	5/7	7/30	9/9	75.3
コシヒカリ	中生	5/7	7/29	9/4	46.2



「にじのきらめき」の玄米外観

※1 茨城県主要農作物等奨励品種特性表(令和5年度版)の水戸市のデータから作成。
 ※2 農林水産省公表「米穀の農産物検査結果」から12月31日現在のデータを用いた。

ご不明な点については、最寄りの農林事務所経営・普及部門、普及センター、JAにお問い合わせ下さい。